

# 神のいのちで贖われた人のいのち

「人の生きるは難く、いのちあるも有難し」、原始仏典、『法句経』の中にあることばだそうですが、たしかに、人の一生は、自分自身に對する戦いであり、人間関係、環境、病氣、災難、貧困などの戦いの連続であるかのようにみえます。他方、人間のいのちは、その人の単なる希望や、計画、努力をはるかに超えた神秘であり、賜物であることも認めざるを得ない事実です。

『法句経』のこのことばは、とかく自己中心的に生き、目先の現世的栄華や労苦にのみとらわれて生きている私たち凡人にむけた説教ではないでしょうか。

この世の現実をただ表面的に、しかもこの世留まりで生きているならば、生きていることの深い意味について考えることもなく、情性的にいきることになります。そして困難や障害に遭遇するとき失望し、生き抜く力を失ってしまいがちです。まして自分の理想や夢の挫折を経験したり、名誉や面通が傷つけられたとき、あるいは抗しがたい悲惨な境遇におかれるとき、生きる意味を見失い死を選ぶことにもなるのです。警察庁の発表によると、日本における自殺者

の数は毎年3万人を上回り、交通事故による死者の実に三倍以上ものぼるのです。しかも、その多数は先の遠くない高齢者ではなく、社会の中枢をなすいわゆる実年の方なのです。かつて軍事大国であった日本は、戦後、勤勉さと努力によって経済大国になりましたが、しかしその裏面で自殺大国になっていたのです。

「人の生きるは難く、いのちあるも有り難し」の法句経のことばは、みごとに分解してしまつて、生きることの困難だけが支配し、生命の神秘、生きていることの不思議さ、生かされていることの有り難さが見失われてしまったので

しょうか。このような現代の日本人にどんな福音が待たれているのでしょうか。このような日本の憂うべき状況を前にして、2001年、日本のカトリック教会の司教団は、『いのちへのまなざし』というメッセージを発表しました。この声明は政治的なものではなく、また安楽死、死刑、中絶といった特定な問題にのみ限定されたものでもありません。この声明において司教団は、キリスト教的人間観、すなわち、どんな人間の生命も神からの

賜物であり、生命そのものである神との直接の交わりのうちにあることを聖書にもとづいて力説し、そこから絶望と恐れを乗り越えていきけるための光と力を汲み取るよう訴えておられます。このメッセージは、現代われわれが直面する社会問題、自殺、中絶、安楽死などの問題を単に倫理的問題としてとどめおくことなく、さらに深いレベルで、人間の根本的

生き方の転換、すなわち人間観や価値観の変革が必要だと判断し、いわゆるコペルニクスの回心を呼びかけているのです。人間のみを中心とする物質的豊かさ、快適な生活、欲望の充足をひたすら求める生き方から、すべてを神と永遠のいのちの視点の中で捉える生き方への転換が求められるのです。「いのちへのまなざし」それはなにも勝つて、いのちそのものである神のまなざしであり、そしてそれがわたしたち一人一人のまなざしになるように招かれています。神のこの世の一人一人に向けておられているまなざし、それは、人となった神の御子イエスが、祈りの中で絶えず聴き分け、そこから生きる希望と力を汲み取られた、あなたはわたしの愛する子、わたしの喜び、わたしが選んだ

者」という父なる神のまなざしにほかなりません。「わたしは、あなたがたが誰一人として決して死ぬことなく永遠の神の生命に生きるために、わたしの独り子を世に与えたのだ」。イエスの十字架上の死、それはわたしたちすべての人間が、一人の例外もなく、決して滅びることなく神の子の永遠のいのちとよるこびに生きるために、日々あらたに父なる神にささげられるあがないの奉獻なのです。「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである」(ミサの中の、パンの聖変化のことば)。

神言会司祭 枝村 茂

# 無知ゆえに幻想を抱く私達

文学作品に描かれている悲劇の中で最も悲惨なもののひとつに、聖書に出てくるサウルの話がある。サウルは、例えていうなら、デイズニーアニメ版「ハムレット」といったところか。本家「ハムレット」には、少なくとも主人公を陥れる正当な理由と言える悲劇が起こるのに対し、サウルは、もって生まれた資質からすれば、もっともつと明るい人生を送るに値したと思われる。

物語は、イスラエル中でも並ぶ者のない、長身・体力・人柄・栄光を兼ね備えた彼の説明から始まる。リーダーとなるべくして貴族階級の王子に生まれた彼の、抜きん出た資質を人々は疑うことなく賞賛した。このおとぎ話のようなくだりがしばらく続く。

だが、ある場面から物語は暗転する。彼よりハンサムで性格・才能にも恵まれたダビデの登場による。嫉妬がサウルの心に毒を盛った。ダビデを見ては、彼の魅力や、それに惹かれる人々には目もくれず、ダビデが自分から奪い取っていった人気の事はかり考えた。腹黒く、狭量で冷た

い人間となつた果てに彼を殺そうとして、最初は自分自身のいのちを絶つてしまつた。若い頃の純粋さ、善良さにはほど遠い、短気な男がそこにいた。

物語を振り返つてみよう。気立がよ、才能・羨望・権力といった神の恵みをあふれんばかりに手にした彼が、短気なだけのつまらない男となり、失意から自殺してしまつたのは一体なぜなのか。

マーガレット・ローレンスの後記作品に「ストーン・エンジェル」という、前述の物語を彷彿させる、美しくも残酷な小説があり、主人公ヘイガー・シブリーがサウルと重なる。こちらもやはりヘイガーが綺麗で聡明で気立てもよく、あらゆる可能性を持つて生まれたくだりで始まる。その美人で明るく優秀な少女の将来は？ 残念ながら淋しい人生だつた。老けて、結婚生活も幸せとはいえず、失望や失意や不安をためこむうち、だらしなく、冷たく、意地の悪い、やる気も夢もない女性になつていった。が、驚くべきといつか、悲しいことに、彼女自身は全く自覚していなかった。彼女の

中では、いつまでも若く清楚で美

しく人気のある、高校時代の魅力的な少女のままなのだ。自分がどんなに狭い世界で暮らし、親友も少なく、外の人にも物にも興味を示さず、みつともない容貌になつたことも気づいていない。

突然、残酷な形で目覚めが訪れる。ある冬の日、着古したパーカーをだらしなくきた彼女は卵の配達で、ある家のドアのベルを鳴らした。かわいらしい子どもが出てきた後、母親に向かつて言う言葉聞いてしまった。「こわい卵売りのおばさんが来たよ！」彼女の手から小銭がパラパラこぼれ落ちた。

呆然として彼女は、その家へ去り、その足で銭湯に行き、明るいとこで自分の姿を鏡でじっくり見た。その中にいたのは、自分の心の中で描いていたのとはことごとく異なる、見知らぬ誰かだつた。今なお若くて魅力的で気立てのよい女性ではなく、こわい卵売りのおばさんだつた。「どうして？」彼女はつぶやいた。「こんな知らない、なりたくもない人になつちやつたの？ これを受け入れなくちやいけないの？」

個人差はあるけれど、これは誰にでも起こる事である。年をと

り、若い頃に夢見た多くのことを諦め、かつて自分に向けられていた人気や賞賛が若者に移つていくのはたまらない。サウルのように、知らず知らず嫉妬を胸にためたり、ヘイガーのように、いつの間にか醜くなつてしまつたり、気づかないのは自分だけである。周囲はもちろん気づいている。

誰もが皆がこうだという訳ではない。普通はもっと賢く、機転をきかせ、年とともに寛大にかわつていく。だが昔よりは容貌も衰え、愚痴っぽくなり、自分ではなく周囲のせいにしたがる傾向になることもある。そして、若くて人気があり、ちやほやされる人を素直に認めず、欠点を探してしまつた。

人生の第二ステージにおける心のあり方として、必要とされるのは、この嫉妬心を克服し、自分の醜さを受け入れ、愛情・素直さ・若さを認め、初心に戻つて『第二の青春』として目にする色々な事象を受け止める姿勢である。

聖書のヨハネの黙示録二：3

「5」で、ヨハネは神の言葉を借りて、若い盛りを過ぎた私達にこんなアドバイスをしている。「あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることになつた。しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころの愛から離れてしまつた。だから、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。」と。

この一説から私達は、冷たく醜い老女が玄関先にいるのを見つけた少女が、母親に言つた台詞を思い出さずに言われない。

ロナルド・ロールハイザー

「40歳を過ぎれば

自分の顔に

責任を持つ」と

人は言う。

# 十代の性 (36)

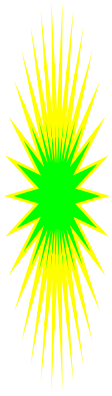
**質問：**私の叔父さんと叔母さんはお互い一目惚れだったと言います。二人は結婚して10年以上経っています。一目惚れのことをどう思いますか？



平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐るあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。

(マザー・テレサ)

**答え：**「一目惚れ」というのは多くの場合、初めて会った時に強く魅かれるものがあつた、という意味です。それは結婚した後の夫婦間の愛、つまり逆境でもお互い愛し続ける責任を伴う愛とは全く違うものです。肉体的魅力で交際が始まることは確かにあります。ほとんどのロマンスには、相手へのほせあがることと相手への友情が同居しています。そういうカップルは自分達の努力と行動で、このロマンスがこの先永遠に続き、満ち足りた人間関係へと発展するかどうかを判断しなければなりません。もしカップルが二人の友情を育てていこうと決めたなら(お互い話し合い分かち合つて、お互いの家族や友達と交わりながら)その関係は愛へと変化していくでしょう。けれど、もしカップルが刺激的なセックスの感情に流され、お互いへの気持ちを肉体的にしか現わさないようになつたら、その関係が長続きするかは疑わしいところです。興奮する性的な満足を得る為だけに相手を利用するのは簡単なことです。つまり、どのカップルにとつても難しいのは二人の関係を本当の愛に発展させることなのです。



## クローニングに対する声明書

「クローン」という言葉は、思考においても実験の実践においても、専門的な手順という意味において、違う意味をもつようになった。その言葉は本質的に、生じた元の実在物と遺伝子的に一致する生物の再生を意味する。ギリシャ語の *κλων* という言葉は、肥えた土に植えられた植物が、自身が取られた植物を再生できる、小枝を思い起こさせてくれる。

### 一、専門的行為を実行するといふ見地から

その表現は次のことを意味する：

- a. ひとつの細胞から始まる細胞株の再生つくられた細胞は、それがもともと生じた細胞と組織学的に一致する。クローンは、単一の DNA 断片から発生する DNA 断片の再生という意味で言われることがある。
- b. 完全な有機体はまだ発達できる、細胞分化全能性のまたは多能性の発達の初期における、胚分裂による細胞の再生。取得した細胞は次に子宮に移される。
- c. 胚、胎児、成人からとられた体細胞から、核を排除された卵胞への核移植による遺伝子的に一致する個の再生。得られた細胞は後に子宮に移される。手順は、

同じ個人の体細胞からとられたいくつかの核を使い、その核を排除された卵細胞に挿入することにより、くり返すことができる。

- d. ミトコンドリア病の「予防」の形態である、卵胞の核を、別の核を排除した卵細胞の細胞質へ移植すること。しかしながらこれは、厳密な意味でのクローン化ではない。修正された卵胞は後に体外受精され、子宮に移される。

### 二、その目的の見地から

次の目的が出版物において注目されてきた。

- a. 「再生」の点での目標 核の提供者の遺伝子に一致する遺伝子伝承をもつた個人を得ること。

b. 「治療」の点での目標 核の移動を通じたクローン化、または一つの卵胞から別の卵胞への核の移しかえ、その後の受精によってミトコンドリア病や染色体異常の胚免疫を手に入れること。

- c. 「生産」の点での目標 選択された臓器、組織、細胞株を得ること。クローンの産物は常に、選択された遺伝子伝承をもつ核の移したクローンによって得られた、有機体/個人(脳髓を持つていても持つていなくても)である。考え方としては、この有機体/個人から、必要な遺伝子質の臓器、組織または細胞株を得ることである。
- d. 「実験」の点での目標 ただ研究をオープンに保つ可能性

(4 ページへ)

# 日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0862 高知市鷹匠町2-1-33

(新住所です)

電話/Fax: 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

http://www.japan-lifeissues.net

For English Speaking People / evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: jerry@star.quolia.com

## 事務所時間:

月	金	10:00	—	17:00
土	曜	日		休
日	曜	日		休

## 御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

## 会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円  
 一万円 五千円 一千円

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいいのちを大切に育みましょう。

## 事務所便り

今年も冷夏かしら?と最初思いましたが、残暑は異常に厳しく、フランスではお年寄りが大勢亡くなられました。そして、悲しいことに引き取り手のない方が大勢おられた事に何とも言えない気持ちです。九月半ばを過ぎた今は、秋を感じさせてくれる風が頬を撫でて、季節の移ろいを目で、肌で感じていきます。

社会も留まる事なく、その姿を変えて行きます。柔軟な若者の考えも周囲の環境によって、変えられて行きます。先日、事務所を訪ねて下さった方が、「孫のことが心配なのよ。今は結婚前に処女を捨てて、と孫のことやうな社会でしよう」とおっしゃっていました。ピアカウセンリングがあちこちで始まりました。それは大学生が、中・高校生の性の悩みを聞きながら彼らを導いて行くというものです。若者を信じていないわけではないけれど、あまりにも多い性の乱れをこの目で見、耳にするこの頃、ついつい大丈夫?と声をかけたくなる大人の気持ちをどのようにつづけていけるでしょうか。

インターネットでは上記のアドレスで沢山のプロ・ライフの記事と社会の問題を提示しております。ごゆっくり御覧下さい。この運動をこれからも続けて行けますように、同封致しました振り込み用紙に皆様からの献金額をお書きの上、郵便局よりご送金下さいますようによりお願致します。この運動は皆様のお気持ちに支えられています事をどうぞ、思い起こしてくださいませよう。

皆に手伝っていただきながら、八月一杯かかって引越した事務所もやっと落ち着きを取り戻しました。今月号の準備が少し遅れましたが、次回からは元の軌道に乗せられるようにスタッフ一同頑張ります。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)

(3ページから)

### 三、倫理的見地から

全ての国際組織(欧州審議会、欧州議会、WHO、UNESCO)がこの話題について声明を出し、そして繁殖目的のために核を除去し、移植するタイプのクローンングは不正であると同意しているが、他の方法や目的については一致した合意点と出来ないほど複雑である。

しかしながら人間の尊厳に関連しては、胚を作り分裂するといった種類のクロー

ニングはいかなるものであれ、どんな方法が使われようと、またどんな目的に使われようと、善をもたらずためであつても、悪を行なうことそのものが正しいくないため、不正と考えられるべきである。

クローニングは、クローンされたものの存在に対する支配関係に起因しており、またそれが性的ない無性生殖であるため子を生む愛という個人的な行動の欠落に起因し、端的にいえば創造主の御計画に反する罪であるとも言えるため、不正である。

ローマ法王庁生命アカデミー

### ビデオ「沈黙の叫び」をみて

#### 自分のためになつた

私がビデオを見て、一番印象に残ったのは、やはり、死んだ赤ちゃんが無造作にポリバケツの中に入れられていた場面です。私はあまりの驚きに、しつかり見ることができませんでした。「中絶」とか、簡単に口にするにはできないな、と思ひました。ビデオを見るまで私は中絶のことをそんなに大きな事として考えていなかったけれど、赤ちゃんが必死に逃げている姿や、悲しんでいる女の人を見て、中絶はしたくないと思ひました。本当に好きな人で、この人の子どもなら産んでいいと思わない限り、軽々しい行動はとらないようにしようと思ひました。

ビデオは生々しくて恐かつたけど、色々と考えさせられるビデオで、結構自分の為にもなつたのではないかなと思ひました。

K・Kさん(高三生)

#### 一人でも多くの人が

私は今回のビデオを見るまで、中絶のことを軽く考えていました。ビデオを見て、特に、死んだ赤ちゃんがポリバケツの中に入れられている場面を見て、中絶がどれだけ罪深い事なのかというのを理解しました。又同時に、中絶をするということは、何の罪もない赤ちゃんの権利を奪うことだということも分かりました。

このビデオをきっかけに、中絶の恐ろしさや胎児の命の尊さをすごく実感しました。だから、これからは軽い気持ちで中絶のことを口に出せないなあと思ひました。このビデオを見て、一人でも多くの人が中絶するのを止まってくれたらなあと思ひました。

K・Kさん(高三生)